

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 058	提案機関名 長井町漁業協同組合
要望問題名 調査船「江の島丸」での底魚等新漁場の開拓について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 同漁協所属漁業者は、長井地先の1,000m前後の漁場で、メヌケ類やアブラボウズ等を漁獲している。この漁場は以前、調査船「江の島丸」が開拓した漁場であり、一本釣りの漁家の生産に直接寄与しているが、漁場が狭く、2～3軒の漁家が操業すると場が一杯になってしまい、漁場が集中するのは資源管理上も不適切である。 一方で、沿岸一本釣漁で20年前まで主力だった、沿岸サバ、スルメイカ、沖合のキンメ漁も、近年の水温上昇に伴い、全く漁場形成されず、不漁続きである。 一本釣漁は、刺網やタコ籠漁と異なり、テグスや針で安価な漁具で着手でき、新たな漁獲対象や漁場が見つければ、当組合にも多い、外部から新規加入した若手漁業者も営める漁業である。 そこで、日帰り操業ができる相模湾内～沖の瀬、布良瀬等の日帰り操業が可能な近場の漁場や新たな漁場で下記調査や試験操業をお願いします。 ①メヌケ類やムツ、ベニアコウ、クロといった高値の付く底魚の新たな漁場開拓 ②サバやスルメイカの沿岸漁場調査（漁船が行っても商売にならないことが多い） ③トラフグ底立て延縄漁の漁場開拓（現状主流の浮流し延縄操業では、漁場を広く使い漁場が密集して操業し辛い、底立て延縄だと錨を打つので多くの船が操業できる） ④カツオの曳釣調査（水温、流れ、水色、ナブラ等、他調査の漁場の行帰りなどで）と相模湾内のマグロの延縄調査、相模案沖合航行時のしらす漁具反応調査 その他、水温上昇に伴い増え曳釣等で対象と成り得る魚種（太刀魚）の漁獲調査 ●上記調査結果の、IT等を通じた迅速な情報伝達	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 磯焼や海水温上昇等の影響で、その時期に獲れる筈の魚が取れない非常に厳しい状況に、コロナの影響の魚価安が追い打ちをかけております。上記調査を通じた新魚種・漁場開拓に期待を寄せております。よろしく願いいたします。	
※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。	
回答機関名	水産技術センター
担当部所	栽培推進部
対応区分	①実施 ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可分
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	
対応の内容等 江の島丸による調査の役割は、かつての「漁場探索」から改正漁業法にあわせた資源評価や資源管理のための「資源調査」にシフトしております。ただし、海洋観測、サバ類やキンメダイの資源調査の際に得られた魚探反応や水温や流れなど、操業の参考となる情報につきましては、今後も随時発信してまいります。 一方トラフグに関しては、近年の漁獲量急増がみられており、生息分布範囲等の調査を検討中です。その際に得られた情報も発信してまいります。	
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考 解決予定年限はトラフグの回答部分	